

改訂版

(仮称) 磐城平城・城跡公園基本計画



令和 4 年 6 月

福島県いわき市

公園整備の基本方針

(仮称) 磐城平城・城跡公園は、「いわきを象徴する場所」、「歴史を語り継ぐ場所」、「いつでも誰でも楽しめる場所」として整備するとともに、公園の整備・管理・運営において、市民が積極的に参加することにより、継続的な賑わいの創出を目指します。

基本テーマ

いわき

共に創り・育て・伝える新しい以和貴の「本丸」

基本機能

- ① 市民が自分たちの街の歴史を振り返り、新たにいわきを知るきっかけとなる「歴史・文化拠点」としての機能。
- ② 中心市街地における貴重な緑のシンボルとして、四季を彩る緑豊かなランドマークとなる「緑の拠点」としての機能。
- ③ 市民や来訪者の思い出づくりや、憩いとやすらぎを得ることのできる「地域のコミュニティ拠点」としての機能。

空間構成(ゾーニング)に関する基本方針

文化交流ゾーン

いわきの歴史や日本伝統文化に触れることにより、地域への理解を深め、地域の魅力を高めるとともに、季節の変化が感じられる植栽などを楽しみながら、休憩・休息ができる「地域コミュニティの場」の創出を図ります。

また、遺構等の保存に配慮しながら観光資源としても活用し、市民や来訪者が集える空間とします。

(主な公園施設：ガイドンス施設)

歴史伝承ゾーン

磐城平城の本丸として、江戸時代から当該地の変遷を見守り続けてきた歴史的な空間の中で、多様な野外活動や地域振興イベントの利用に供することにより、「いわきの歴史に思いを馳せる場」の創出を図ります。

また、遺構等を保存し、将来にわたり磐城平城の歴史を継承していく空間とします。

(主な公園施設：正門、芝生広場)

自然散策ゾーン

磐城平城の遺構の一部〔白蛇堀(はくじゃぼり)〕が現存する自然環境の中で、眺望や散策を楽しめる「憩いとやすらぎを得られる場」の創出を図ります。

いわき駅からのアプローチとなる、磐城平城の顔として、自然と文化が融合する空間とします。

(主な公園施設：白蛇堀、憩いの広場、アプローチ階段)



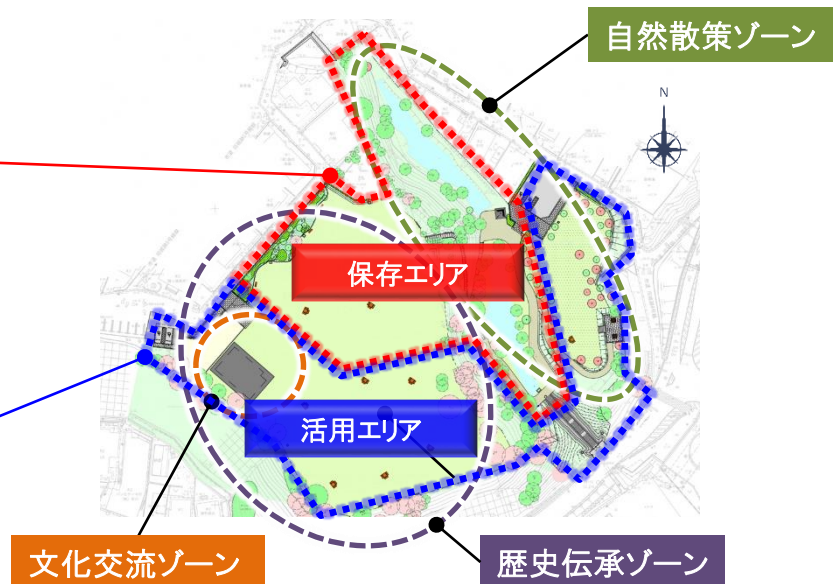
ゾーニング計画図

保存エリア

- ・遺構等を保存するエリア
- ・活用にあたっては、遺構等の保存に影響のない活用方法を検討するエリア

活用エリア

- ・遺構等の保存に配慮しながら活用する区域
- ・これまで、建物が建てられていた等の経緯があるエリアで、比較的遺構等への影響が少ないエリア



文化財の保存・活用に関する基本方針

磐城平城跡の歴史・文化的価値

令和2年度の発掘調査によって発掘された出土遺構や出土遺物は、磐城平藩の政治の中心であった本丸御殿の姿を知る上で、重要なものであると考えられます。現在のその価値の検証が進められており、今後、その価値が高まることも期待されます。



その他、市指定史跡となっている「磐城平城跡塗師櫓石垣」をはじめ、「白蛇堀」などが現存しており藩政時代をしのばせる貴重な歴史・文化的資源となっています。

また、1602年、藩主となった鳥居忠政が整えた城下町として栄えた多くの部分は、現在、市街地となっているものの、藩政当時から変わらず受け継がれてきた地名や地形、寺社・仏閣など歴史・文化的資源が市内に現存しています。


視点	基本方針
保存	<ul style="list-style-type: none"> ◆令和2年度の発掘調査において確認された遺構等については、その価値の検証が進められていることから、今後さらなる調査等が行われる可能性を考慮し、遺構は破壊せず保存します。 ◆既に確認されている遺跡等については、適切な維持管理を行い、その遺構等の保存を図るとともに、文献史料等に基づく調査・研究と当該城跡の本質的価値の明確化を進めて行くことができますようにします。
活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆「いわきを象徴する場所」、「歴史を語り継ぐ場所」、「いつでも誰でも楽しめる場所」としての活用を図ります。 ◆遺跡等の保存を前提とし、史跡指定と平城跡の活用の両立について検討します。
整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆遺構等の破壊を回避するため、遺構等の状況、現状の特性などを踏まえ、保存エリアや活用エリアなどのエリア分けを行い、施設などの整備位置を再検討します。 ◆今後、再調査などが想定されるエリア等については、盛土等により保護・養生を行うなど、再調査等が可能な整備を検討します。 ◆平城跡は、高台に位置することから、歩行が困難な方などの利用も含め、誰もが安心して利用できる施設として整備します。
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ◆庁内の体制の連携・強化を図るとともに、必要に応じて専門家等の意見、指導・助言等が受けられる体制づくりを進めます。 ◆市民や関係団体等が維持管理等に積極的に参加することにより、継続的な賑わいの創出を目指します。

平城跡の活用方法

「いわきを象徴する場所」としての活用

活用の方向性	活用方法
城下町を象徴するシンボル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ (仮称) 磐城平城・城跡公園として公園整備を計画し、城下町として発展してきた本市を象徴するシンボルとして活用します。 ◆ 発掘調査で確認された遺構等については、本市の貴重な「宝」として保存するとともに、観光資源としての活用を図ります。
中心市街地における貴重な緑のシンボル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 桜、イロハモミジなど既存の樹木等を活かし、中心市街地部の貴重な緑として、市民等が四季折々の自然を楽しむ場として活用を図ります。

「歴史を語り継ぐ場所」としての活用

活用の方向性	活用方法
遺構等を活用した歴史・文化の伝承拠点	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発掘された遺構や周辺の文化財等の保存、展示等により、市民等が平城跡の歴史や城下町として発展してきた本市の歴史・文化に触れることのできる場として活用を図ります。 ◆ 学校や関係団体等と連携し、歴史・文化の体験学習の場として活用を図ります。 ◆ 遺構等の展示については、子ども達が気軽に触れることのできる展示手法（複製展示（レプリカ）、平面表示）や、その本質的価値の検証とあわせ、段階的にその機能を拡充・更新できるVR等のデジタル技術を活用した展示方法とします。
市街地部等の歴史・文化資源との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 城下町としての歴史・文化を、広く周知していくため、市街地部の歴史・文化資源と連携した活用を図ります。 <p>事例：「古地図」使って街歩きできるWebサイト ・丹波篠山市が制作したWebサイト ・GPSの現在地情報と合わせて簡単に文化財や観光施設等を探すことが出来る。 出典：先端技術による文化財ハンドブック（文化庁）</p> 

「いつでも誰でも楽しめる場所」としての活用

活用の方向性	活用方法
市民等の身近な憩いの場	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 遺構等の保存やそれを生かした活用とともに、市街地部の公園として、市民等の身近な憩いの場、子どもたちの遊びの場、多様な野外活動や地域振興イベントの開催の場としての活用を図ります。

■ いわき市中心市街地活性化計画 対象区域



■ 市街地部（中心市街地・その周辺）の主な歴史・文化的資源

- ・ 安藤信正像
- ・ 天田愚庵の草庵
- ・ 松堂院
- ・ 良善寺
- ・ 子鋏倉神社
- ・ 飯野八幡宮
- ・ 性源寺
- ・ 平廿三夜尊堂
- ・ 古峯神社
- ・ 九品寺
- ・ 天満宮
- ・ 延命地藏堂
- ・ 別雷神社
- ・ 天照皇大神宮
- ・ 明賢寺
- ・ 長源寺

◆ (仮称) 磐城平城・城址公園周辺

- ・ 磐城平城跡塗師櫓石垣
- ・ 隅図櫓石垣
- ・ 中門櫓石垣



■ 展示に活用が考えられる主なデジタル技術（参考）

	技術内容
VR 仮想現実(感)	コンピュータ上に写真やCG（コンピュータグラフィックス）などで人工的な環境（仮想世界）を作り出し、あたかも自分がその場にいるかのような感覚を体験できる技術。時間や空間を超えて、まるで現実世界のように体験することができる。
AR 拡張現実(感)	現実の風景にコンピュータで生成した情報を重ね合わせることで、現実世界を拡張する技術。見ているものに情報（文字や映像）を効果的に付加できるため、過去の景色との比較や字幕ガイドなど、幅広い活用先が見込まれる。
位置情報測定システム	利用者や端末がどこにあるのかを測定できる技術。代表的なものにGPS（全地球測位システム）やビーコン（位置取得用の電波発信器）などがある。位置情報を組み合わせることで、例えばスタンプラリー形式での観光地案内アプリの実現といったように、現地への誘客促進や周遊時の情報発信などが実現できる。

出典：先端技術による文化財ハンドブック ダイジェスト版(文化庁)

事例：ARを使った歴史体験

日向市では、目の前に長岡宮が存在しているような体験ができる「AR長岡宮」を制作。



出典：先端技術による文化財ハンドブック（文化庁）、日向市HP

事例：QRコード&VRで情報発信

スマホでQRコードをかざすと祭屋台の360度パノラマサイトに誘導。



出典：先端技術による文化財ハンドブック（文化庁）

■ 地下に埋蔵されている遺構の主な展示手法（参考）



複製展示（レプリカ）
国分寺市：史跡東山道武蔵路



観察窓
国分寺市：史跡東山道武蔵路



平面表示
函館市：五稜郭(函館奉行所跡)

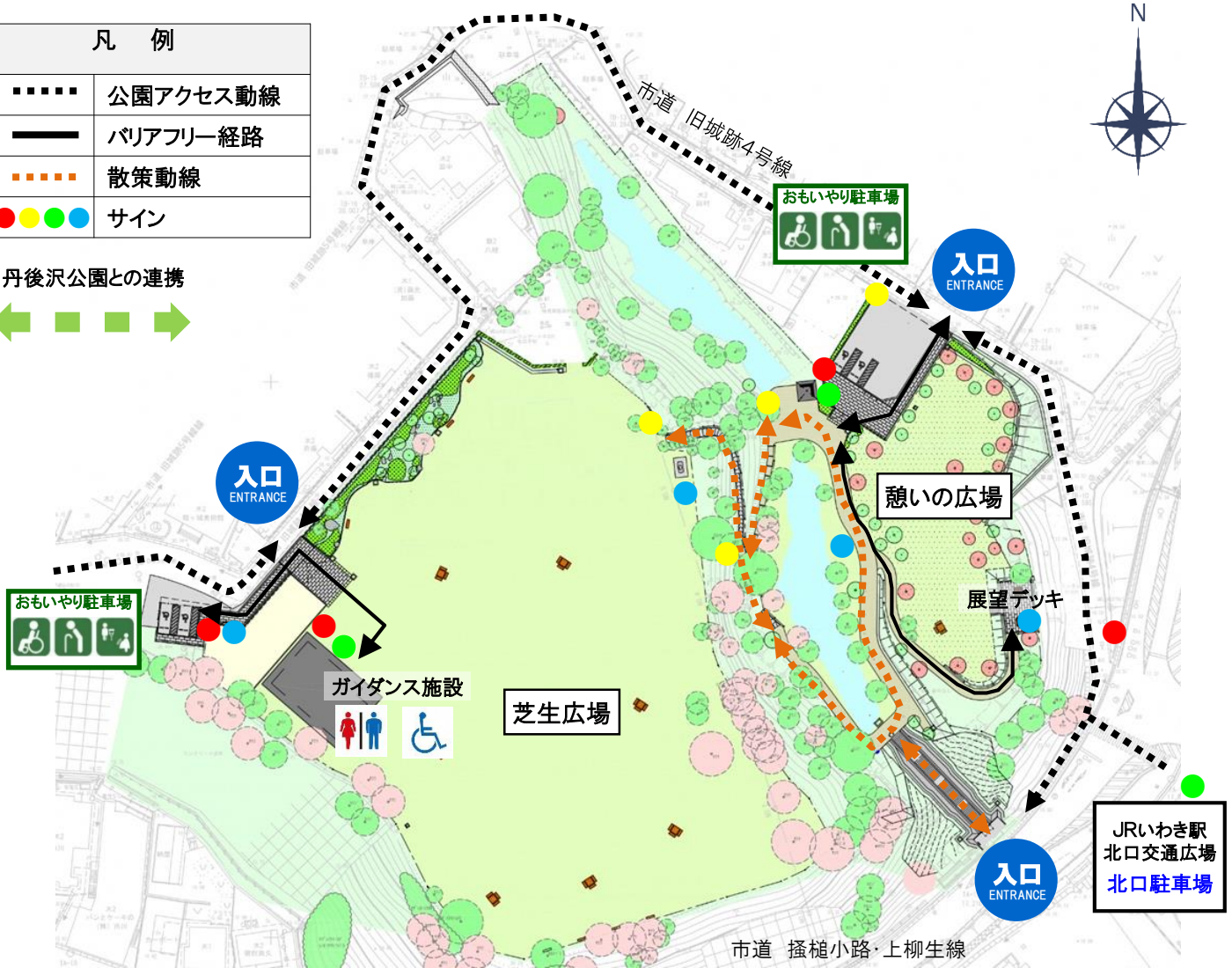


平面表示
北海道檜山郡上ノ国町：勝山城跡

公園基本計画図 (アクセス・動線計画)

凡 例	
-----	公園アクセス動線
————	バリアフリー経路
-----	散策動線
●●●●	サイン

丹後沢公園との連携



〔公園基本計画図〕

■ バリアフリー経路

広場ごとに設置した出入口及びおもいやり駐車場と主要な公園施設間の経路については、バリアフリー化を図ります。

■ おもいやり駐車場

歩行が困難な方が駐車するスペースとして、おもいやり駐車場を設置します。なお、車で来園する方については、周辺公共施設（いわき駅北口駐車場等）の利用を促します。

＜おもいやり駐車場計画台数＞

東側：2台、西側：2台

■ サイン（標識）

来園者に園内の情報を伝えるとともに、利便性の向上及び「いわきの歴史」を知る機会の創出を図るため、磐城平城に関する解説サイン等を設けます。

＜サイン種類（主な機能）＞

- 園名サイン（園外からの誘導）
- 案内サイン（園内の経路及び公園施設の案内）
- 誘導サイン（園内の誘導）
- 解説サイン（磐城平城に関する説明）

主な公園施設計画

門

正門については、来園者が「城に入る」イメージを持つことができる落ち着いた「和」の印象を与える意匠とします。また、東門については、自然散策ゾーンへの入口となるため、自然的景観との調和が図られ、かつ城跡地としての雰囲気創出が可能となる意匠とします。



【正門イメージ図】

園路広場

園路については、園内を快適に散策するための機能性を確保するとともに、歴史・自然資源を有する当該地の風致を維持できる舗装材を選定します。

また、広場については、これまで当該地で実施されてきた地域振興イベント等を踏まえ、多目的な公園利用が可能となる芝生のオープンスペースを設けます。（芝生広場、憩いの広場）

<舗装区分>

文化交流ゾーン **歴史伝承ゾーン** : 砂利系舗装（現状の雰囲気踏襲した景観性）

自然散策ゾーン : 土系舗装（自然の雰囲気に調和する景観性）

展望デッキ

磐城平城本丸跡地として、現在も維持されている地形特性(土塁)を活かし、市街地や園内の展望を楽しむことのできる視点場を設置します。



① いわき駅北口交通広場を望む（現況写真）



【視点場配置図】

白蛇堀

磐城平城の遺構の一部である白蛇堀を明るく健全な水辺空間として活かしながら、市民の憩いと散策の場の創出を図ります。



【白蛇堀イメージ図】

意匠・デザイン

江戸期の城郭イメージを基本とし、新たに導入する施設の意匠が際立たないよう、歴史（時間の経過）を感じられる自然素材や色調、質感を持つ意匠を基本とします。

デザインコンセプト

和風を基調とした重厚感のある素朴な意匠

ガイダンス施設

本市の歴史・文化に触れることができる特色ある公園づくりにおいて、重要な役割を担う本施設については、多様化する公園へのニーズに対応する機能を設け、地域の方々や中心市街地に訪れる方々の来園意欲向上及び公園の魅力向上を図ります。

<施設機能>

- 地域の歴史を伝承する場としての機能（本市の歴史を学び・伝える場）
- 日本伝統文化の活動の場としての機能（茶道、華道、書道等の体験・交流の場）
- 市民や来訪者の交流の場としての機能（来園者が気軽に立ち寄れる休憩・休息の場）
- 公園管理者の管理事務所としての機能（受付、管理事務所等）

■建物意匠

本公園が創出する良好な景観との調和が図られ、磐城平城本丸跡地の歴史的な価値を向上させるに相応しい品格ある「和」を基調とした意匠とします。

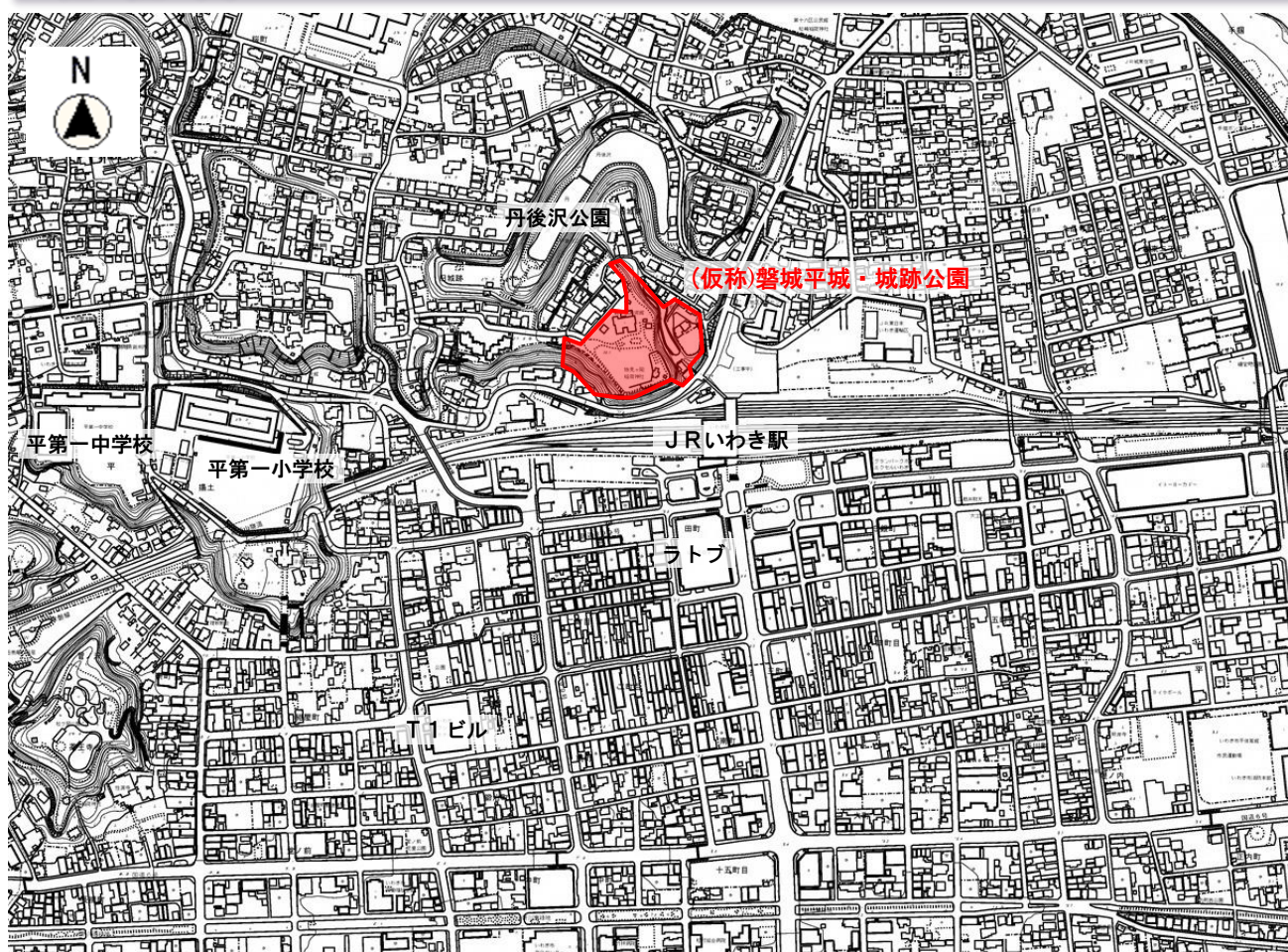
建物意匠テーマ

「磐城」のおもてなしを感じられる趣のある和風建築物

公園概要

事業名称	都市公園整備事業（中心市街地活性化分）
事業年度	平成29年度～令和6年度（予定）
概算事業費	約15億円（予定）
公園名称	いわきたいらじょう・しろあとこうえん （仮称）磐城平城・城跡公園
公園種別	近隣公園
公園面積	約1.5ha（いわき市平字旧城跡17番1外）
主な公園施設	<ul style="list-style-type: none"> ・園路広場（園路広場、アプローチ階段等） ・修景施設（植栽（庭園）、白蛇堀等） ・休養施設（四阿、野外卓、ベンチ等） ・教養施設（ガイダンス施設） ・便益施設（トイレ、駐車場等） ・管理施設（門、柵、サイン等）

位置図



担当 いわき市 都市建設部 公園緑地課
住所 〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地
電話 (0246)22-7518(直通) FAX (0246)22-7568